

## アメリカミネソタ州立大学マンケート校研修を終えて

派遣期間：2023年3月10日～3月26日

看護学部二年生

野村真由佳

今回、私は自分の目標に近づき、また英語力を向上させるために、この研修に参加させて頂きました。研修を通し、日米の医療の違いに気づき、また文化の違いを経験して視野が広がり、物事を多角的に捉える力が向上したと思います。

研修内容は、マンケート校大学での授業聴講、演習への参加、マイヨークリニックやポンドクリニックの見学、大学院生の授業に参加しました。また、たくさんの校外アクティビティを企画してくださり、濃密な二週間を過ごすことができました。

私が日米で大きな違いを感じたのは、医療保険制度と、ナースプラクティショナー (NP) の存在、看護師の役割についてです。日本は国民皆保険制度で、誰でも医療を受けられるシステムが整っていますが、自由を主張するアメリカでは、医療保険についても様々な選択肢があり、65歳以上と貧困層、先住民、退役軍人以外は私的保険に加入します。そのため、健康にかかるお金が日本と比べ高額で、保険加入や医療を受けることで破産に繋がるケースがたくさんあると伺いました。オバマケアにより、制度が改革された部分もありますが、貧困層がより医療にアクセスしやすくなる体型に見直されると良いなと考えました。

ナースプラクティショナーについては医療保険制度と大きく関わっているように感じました。日本ではナースプラクティショナーはまだ採用されておらず、その存在意義について不明な部分も多いと思います。アメリカでも NP ができる医療行為は州により様々ですが、ミネソタ州では、NP は診療、処方、投薬など多くのことを NP の一存ででき、手術をしない医者というような立ち位置でした。見学した POND クリニックは、NP が運営するクリニックで、州と提携しており、無保険の方や、州の保険制度にしか入れないような患者さん、また特に子供が無償で医療を受けられるような施設でした。日本でいうところの第一次医療機関に入るように思いました。アメリカでは医者は根治困難な病気について、治療法を模索し、高度な医療技術を研究し、手術をし、立証していく役割を担い、NP は日本でいうクリニックの医者の役割を担っており、役割分担がされていると思いました。日本のクリニックでは、少しの自己負担で診療、処方、投薬を医師が行います。そのため、アメリカの NP 制度を日本に導入したとしても、貧困層でもクリニックなどで医療を受けやすい日本では、NP の存在が第一次医療を提供する医者に立ち替われないと思います。アメリカの文化が NP の存在を加速させたのだと考えました。

今回の研修で日本の医療制度は充実していると思う反面、アメリカの看護師が日本より尊敬される職業であるということには憧れも感じました。これは、アメリカが自由を主張し、個に重きを置く文化であるため、伝統的に看護師が個で動ける範囲が広く、自ら責任を持ち、

医者に対等に意見が言える事に基づくものであるのだと思います。日本では、看護師も責任を持ちますが、医者の下で働くため医者が大部分の責任を持っているように思います。そのため、日本でも看護師全体が実力を高め、医者とは違う視点で患者さんを見つめ、より責任を持つことが大事だと思いました。それにより、医者と対等に看護師独自の意見が言え、より活躍でき、医者と同じように尊敬される職業になると良いなと思います。看護師の役割を見直し、専門性を高め、努力をすることが必要なのではないかと考えました。

研修を通して、たくさんの講義や演習に参加し、また文化に触れる機会も多くあり、日本にいとわかり得ないような貴重な体験がたくさんできました。このような素晴らしい研修にしてくださった先生方、フレンドリーに優しく交流してくれた生徒の皆様に感謝です。研修を企画し、動いてくださった大阪医科薬科大学の先生方、本当にありがとうございました。



## ミネソタ州立大学マンケート校研修報告書

看護学部 1 年 日高歩奈

今回のミネソタ研修はあっという間に時間が過ぎていきました。出発初日は、家族と離れる寂しさや本当に 2 週間やっていけるのかといった不安などで「出発 2 週間前が一番楽しかったな」という気持ちがありましたが、実際に行ってみると時間が過ぎるのがあっという間で次第に帰りたくないという気持ちの方が強くなりました。この 2 週間の研修では多くのことを経験し、学び、そして日本にいただけでは見ることのできない景色を見ることができました。研修で経験したことや学んだことはここに書ききれないほどありますが、今回は研修での 1 番の学びと印象深かったホッケーについて書こうと思います。

今回の研修での 1 番の学びは、目標の 1 つとして挙げていた文化の違いと日米の保険システムの関係についてです。そして研修を通して、文化の違いと保険システムの違いが個々に健康に影響をもたらしているというよりは、文化の違いが異なる保険システムを生み、そしてシステムの違いが健康に影響をもたらしているということを学びました。Hans 先生は、日本は規律や空気を大切にす文化である一方、アメリカはそれぞれの自由を大切にする文化を持っていると仰っていました。そしてそれは両国の保険システムに顕著に表れています。日本は国民全員が平等に同じ保険でカバーされる国民皆保険制度を持ち、国民全員で国民全員をカバーするという言わば連帯責任の面がありますが、アメリカでは公的保険は全員に適用されず、各々が会社などを通じて保険に加入するというあくまで個人の選択、個人の責任という面があります。そのため保険に加入していないために病院に行くことのできない人が多くいるということ、そしてそれは移民や労働階級の人たちとその子供などで、例えば高速道路 1 本挟んだだけで差が生まれてしまうということを知りました。日本では通り 1 本で治安が急変したり、貧しいために病院に行けなかったりすることはないため、保険システムの違いがもたらす影響を体感しました。しかし無保険であるために一切の医療サービスを受けられないということはなく、研修の後半に見学させていただいたナースプラクティショナーが運営するクリニックでは無保険者や公的保険にのみ加入している人に対して無料のワクチン接種の機会があったり、Health Check を受ける機会が設けられていたりしていました。

また今回の研修で印象深かったのはアイスホッケーの試合で、スポーツには人種や宗教、出身、性別、年齢は関係ないということを感じました。アメリカには日本以上にたくさんの人種、信仰、出身の人がおり、多様性という言葉で表されるのと同じくらいに差別と根深い歴史があるのは日本にいても感じることができます。実際に黒人男性が白人警察官に殺害された現場やその後暴動が起こった場所も車での移動中に通りました。しかしホッケーの観戦中はそのチームを応援する全員が真剣になっていて、負けそうになったらみんなが焦

って、勝ちそうになったらみんなが必死に声を出しているのを見て多様性の中の団結力を感じました。人生はじめてのスポーツ観戦でしたが、良い結果に終わりまたその中でも学びがあり、とても楽しい思い出になりました。

最後になりましたが、現地との調整や安全でスムーズな渡航のために動いてくださった国際交流センターをはじめとする先生方、私たちが楽しくいろいろな経験をできるようにとスケジュールを細かく調整して現地での行動を支えてくださった Hans 先生と Lynn 先生をはじめとするミネソタ州立大学マンケート校の先生方、大学内で私たちと交流を持ってくれた看護学生の方たちに深く感謝申し上げます。そしてアメリカ行きを応援し支えてくれた家族にも感謝の気持ちでいっぱいです。この貴重な経験を残り 3 年の学びにつなげてより良いものにしていきます。

ホッケー観戦 ミネソタ州立大学マンケート校のチーム Marverics のマスコットと



ホッケー観戦中



日曜日に看護学生の Jennifer がマンケートツアーに連れて行ってくれた時



ED のシミュレーション見学中

